

授業概要

保育実践において子どもの理解を深めるためには、子どもそのもの、つまり個の発達を知るという側面と、子ども達を取り巻く社会・文化的な側面の両方に目を向けることが大切である。授業では、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法、そして子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について、保育の事例を通して実践的に学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）／保育における子ども理解の意義
第2回	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開
第3回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
第4回	子どもの生活と遊び
第5回	人的環境としての保育者と子どもの発達
第6回	子ども相互の関わりと関係づくり
第7回	集団における経験と育ち
第8回	葛藤やつまずき
第9回	保育の環境の理解とその構成・変化・移行
第10回	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価
第11回	職員間の対話
第12回	保護者との情報共有
第13回	発達の課題に応じた援助と関わり
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第15回	発達の連続性と就学への支援
第16回	定期試験

到達目標

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できる。

履修上の注意

授業では、意見やコメントを書くなどのワークや、内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

授業での取り組み（60%）、定期試験（40%）によって行う。
 授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況、授業への取り組み姿勢なども考慮する。

テキスト

テキストは特に指定しないが、適宜必要に応じて参考書などを紹介する。